

卒業論文

精神障害者の家族が抱える困難についての研究

2011 年度入学

九州大学文学部人文学部人間学科コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2016 年 1 月 提出

要約

本研究は、臨床家族社会学の実践につながる可能性を持つ知見を見出すという筆者の目標の第1段階として、精神障害者の家族が抱える困難を明らかにすることを目的とするものである。

はじめに、精神障害者をめぐる状況として、精神障害者が日常的に抱えている困難と、精神障害者支援の変遷を整理した。そのうえで、精神障害者支援の地域移行の推進を背景に、精神障害者の家族が抱える困難に着目する理由を示した。

次に、精神障害者の家族に関する先行研究をまとめた。精神医学の領域に限定的であった精神障害者とその家族についての研究が社会学領域と統合することによって、家族の困難に着目してきたことを示したうえで、精神障害者の家族に対する専門家のまなざしの変遷をまとめ、現在その萌芽が見られる「リカバリー志向の家族支援」の有用性を示した。

続いて、精神障害者の家族の実態調査として、インタビュー調査の分析を行った。まず、インタビュー対象者の事例の概要をまとめることで、「責任役割の集中」という分析の方針を示した。また、対象者の語りを「責任役割の集中」のプロセスとして時系列で整理したうえで、「責任役割の集中」の要因と、それに起因する困難についてそれぞれ分析を行った。さらに、「責任役割の集中」に起因する困難に対して、家族会の機能がどのように働いているのかを明らかにすることを目的として、家族会の分析を行った。

最後に、分析から見出された知見を整理し、臨床社会的視点からの見解を述べて結びとした。

目次

1	精神障害者と家族をめぐる今日の状況	1
1.1	精神障害とは	1
1.2	精神障害者支援の変遷	1
1.3	問題設定	2
2	精神障害者の家族に関する先行研究	4
2.1	医療の枠組みから語られた家族について	4
2.2	近代家族について	5
2.3	精神障害者の家族研究の歴史の変容	6
2.4	臨床家族社会学について	8
2.5	小括	9
3	精神障害者家族の実態調査	10
3.1	調査の概要	10
3.2	インタビュー調査の分析	11
3.2.1	事例の概要	11
3.2.2	「責任役割」の引き受けプロセス	12
3.2.3	「責任役割の集中」の要因	19
3.2.4	「責任役割の集中」による困難	28
3.2.5	小括	34
3.3	家族会の分析	36
3.3.1	家族会の概要	36
3.3.2	家族の困難と家族会の機能	37
3.3.3	小括	42
4	結論	43
	[注]	45
	[文献]	46